

# 1. ペテロと魚

**Q：本はよく読むか？世界中で最も出回っているベストセラー作品とは？**

A：聖書。ハリポッターもこち亀も目じゃない！15~20億人の人々、すなわち世界の1/4の人はクリスチャンと言われている。

**Q：なぜ聖書から学ぶのか？**

A：世界の4人に1人がその思想に影響を受けている聖書について知っていることは、国際社会を生きていく上で不可欠。世界のリーダー的存在のアメリカもキリスト教の影響を大きく受けている。さらにブッシュ大統領は敬虔なクリスチャンで、政策にも大きく聖書の価値観が表れている。

聖書は6000年前から1000年後までの合計7000年間のことについて書かれていて、それぞれの時代の主人公の成功談、失敗談から学ぶものがある。

今回は新約聖書の主人公のイエス・キリストとその弟子ペテロとの出会いの話から聖書の読み方について。

**【本題】**

〈マタイによる福音書 17：24~27〉 p.28

**Q：登場人物は誰か？**

- ・ 彼ら＝イエスとその弟子
- ・ 宮の納入金を納める人たち→〈出エジプト記 30：13〉参照
- ・ ペテロ（イエスからもらった名前）＝シモン（本名）
- ・ あなたがたの先生＝イエス

→本文の説明

様々な地へ神様からもらった言葉（＝御言葉）を述べ伝えるに行く途中のカペナウムという地での話。

**Q：本文で疑問に思うところはないか？**

- ・ ペテロが納入金を「納めておられます」といったのは、イエスを心配させないため。イエスはペテロといつも一緒にいたからペテロの様子がおかしいのに気づき、先にペテロに話しかけた。
- ・ 宮の納入金は、神様とイエスの関係は王と子の関係だから納めなくてもいいと言ったが、誤解されないために海に行き釣針を垂れ、魚を釣り、その口に入っている銀貨を納めよと言った。

**Q：海に行き釣針を垂らすと、最初に釣れた魚の口には銀貨が見つかる、とあるが、今までそんなことがあったか？**

→このような文を見て、非現実的な物語だと思って聖書を閉じてしまう人も多い。しかし現在無いことは過去にも無い。

〈イザヤ書 34：16〉 p.989

主の書（＝聖書）を詳細に読めば連れ合いがある。つまり問題があれば解答がある。

そう書いているので解答を探してください。

この話を教えてくれた人は聖書を2000回以上読んだ人。この話を聞く価値を分からないと駄目。では感謝して解答のほうにいきましょう。

〈ルカによる福音書 5：1~11〉 p.91

「人間をとる漁師になるのだ」→漁師は海に出て釣針をもって魚をとる職業。〈マタイによる福音書 17：24~27〉の内容は、世の中の海に出て行ってイエスの教え（＝御言葉）を伝えて苦しみや悩みを解決してあげなさい。すると問題を解決してもらった人は感謝してこちらが宮の納入金で困っていることを知ったら助けてくれるだろう、ということ。

〈マタイによる福音書 13：34~35〉 p.21

イエスは譬で群衆に語られた。

※ 聖書は比喻で書かれている！

**Q：なぜ譬でイエスは語られたか？〈マタイによる福音書 13：10~13〉**

A-1：分かりやすいから。毛むくじゃらで筋肉質で力が強くて…というよりゴリラみたいな人と言った方が分かりやすい。ペテロも人を魚にたとえると理解しやすかった。Ex)鮫、回遊魚、熱帯魚、アンコウ et キリスト…

A-2：直接話すと迫害の恐れがあった。イエスのことを快く思っていないパリサイ人や律法学者が、悪いうわさを流したり迫害したりする。

A-3：神様は万物を創造したゆえ、文学の創始者でもあるから。

A-4：キリストを証するため。聖書にはキリストがきたら比喻がすべて明らかになると書いてある。

#### 〈ルカによる福音書 5：1～11〉 p.91

ペテロに関して

ペテロも何の葛藤もなくイエスについていったわけではない。ペテロは自分の専門分野である漁に対して、漁師でもないイエスに沖へ漕ぎ出し、網をおろして漁をしてみなさいと言われて、その言葉を受け入れるか否か一瞬悩んだが、受け入れやってみたところ魚が大量に取れた。そのようにしてイエスの言葉に従ったところ、イエスの一番弟子となり、サン・ピエトロ大聖堂が建てられるなど、歴史に名を残す人となった。もし従わずにいたら、頑張っても漁業組合長くらいにしかならなかっただろう。

※ 奇跡とは魚が大量にとれたことではなく、ペテロがイエスの言葉によって変えられたのが奇跡！

#### 〈テモテへの第二の手紙 3：15～17〉 p.335

聖書は神様の靈感をもって書かれたものだから一貫性がある。また人を教え、戒め、正しくし、義に導くのに有益であるから、学ぶ価値がある。

#### 〈ヨハネによる福音書 21：25〉 p.179

イエスのなさったこと全ては書き得ない。比喻を全て解かなければただの夢物語、解いたら生活に則した話。

※ 核心：聖書は比喻で書かれている！

ペテロと魚は聖書に対する固定概念を解く講義。次も聞きたいと、次につながるように。文字どおりではない。

聖書は奇跡の本ではない。自分に関係のある話。だから解かないといけない。他ではこんな解釈はしていない。比喻をそのままにしている。

<マタイ 17 : 24~27>

まず初めて聖書に触れるから詳しく解説。彼らとは誰か？イエスは神様の言葉で人々を助けた人。イエスはお金稼ぎをするために各地を回っていたのではないので、お金がなかった。ペテロは強がって払っています、といった。イエスはペテロといつも一緒にいたからペテロの様子がおかしいのに気づいた。そしてペテロ=シモンに話しかけた。王は納入金（銀貨1枚で2人分の税金<出エジプト 30 : 13~16>）を子からは取らない。だから神の子といわれたイエスは払わなくていい、といいたいが、人々は信じないから、海に行って釣り針を垂れなさい。魚が銀貨を加えているだろうと。Rはおかしいなど思った。今ないことは昔もなかったはず。<イザヤ 36 : 16>に連れ合いを欠くものはないとあるから聖書をいろいろ探してみた。

簡単に伝える時は<マタイ 4 : 18~19>

イエスがペテロと出会ったところ。ペテロは漁師だった。人間をとる漁師とは？漁師は魚を取る人だから、魚=人。よって魚がすむ海=世の中、釣り針=御言葉

もっと詳しく知りたい人には

<ルカ 5 : 1~11>

漁師のプロであるペテロが夜通し漁をしたが魚が取れなかった。イエスは万物の法則を知っていたから沖へ出でよと言った。その話を無視もできたが、聞き従った。ペテロのすごいところは、固定概念にとらわれなかったこと。

イエスの奇跡は人が変わったこと。

<テモテ II 3 : 15~17>

聖書は人間の考えでなく、神様の靈感でいたもので人を教えるもの。だから学ぶ価値がある。

<マタイ 13 : 34>

イエスはたとえで語った。聖書は比喻で書かれている。魚が銀貨をくわえているという奇跡を信じてても何の利益もない。

<教訓>

- ・イエスは人によくしたから良くしてもらった。行ったとおりに報われる。
- ・固定概念にとらわれたら成功できない。

※ ペテロと魚は聖書だけで伝えられるように。

人を折れる講義を。聖書の登場人物と自分をダブらせて。

次回予告とか面白い。

## 2004年3月8日 壮太郎聖書S集中講義

御言葉に出会ったことがどういう意味なのか。

受身で聞かないように。

御言葉は生きたもの。

聖書は日本人にはなじみが薄いですが、世界では約20億人がクリスチャン。日曜日には教会に行ったり、食事前に祈る。日本人は宗教的には特異的。聖書は読んでみたらぜんぜんわからない。どうしてわからないのか。教典となるべき書物なのだが。クリスチャンはわからないけどとにかく信じなさいという。聖書を読む観点が必要。

マタイ 17:24~27

これはイエスがカペナウムに御言葉を伝えに行く場面。宮は祈る場所。ペテロは強がって宮の納入金は納めているといった。納めなかったら一般人に槍玉に挙げられるから。クリスチャンは、魚が銀貨をくわえているのは、神様の奇跡だとか、信じないと信仰が悪いとかいう。

聖書を読む上で重要な点は

イザヤ 34:16

連れ合いを欠くものがない。わからないところがあるなら、それを補うものがある。

ルカ 5:1~11

漁もしたことがないイエスの言葉にペテロは従った。ペテロは漁師だったから魚がすべてだった。だから人を魚にたとえた。人間をとる漁師とは神様の御言葉で人の心を捉える人。社会に出て

神父や牧師は教えに感動した人

神様を知らなければただの漁師で終わった。大きな奇跡は御言葉で人が変わる事。

マタイ 13:34~35

マタイ 13:10 から 反対者がいるから比喻を使った。

ルカ 1:11

聖書は書いてある背景を考えないといけない。ペテロにとっては魚が取れないのは一大事。一人

ヨハネ 6:68~69

イエスが人生を解決してくれる

ヨハネ 21:35

聖書は中世に編集されテモテ手Ⅱ:15~17

比喻を解く存在者が大きい。